

〔科目名〕 <p style="text-align: center;">産業組織論</p>	〔単位数〕 <p style="text-align: center;">4 単位</p>	〔科目区分〕 <p style="text-align: center;">専門科目</p>
〔担当者〕 <p style="text-align: center;">橋本 悟</p>	〔オフィス・アワー〕 時間:初回の授業で提示する 場所:初回の授業で提示する	
〔科目の概要〕 産業組織論とは、応用ミクロ経済学であり、産業間の関係、企業間の関係、政府と企業の関係など幅広い分野を含んでいる。授業では、ミクロ経済学の学習をベースとした基礎編と、より実務的・政策的な視点からの応用編に分けて学習する。また、マクロ経済学の経済成長などをベースとして研究開発やイノベーションの重要性も学習する予定である。 目標とする到達レベルは以下の通り。 1. 企業の立場から利潤拡大の戦略を考えることができる。 2. 政府が行う産業政策の意味が理解できる。 前半は、基本的にはミクロ経済学の復習をしながら、企業活動、市場構造、産業構造を見ていく。後半は、具体的な産業を取り上げて、競争状況、産業政策、グローバル化などを見ていく。		
〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 企業戦略や産業政策などをはじめとした社会のさまざまな事象に対して、経済学的な視点から考える力を身につけることができるようになる。また、需要サイドと供給サイドの視点から市場を見ることができるようになる。 将来的には、企業に就職して具体的な企業戦略を考える際や、市場均衡・マーケットメカニズム・環境を分析する際に役に立つと思われる。さらに、様々な社会の問題に対して、経済学的な視点から問題解決を行う力が身につくと思われる。 ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済などの科目と関連する。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (中間目標) 1. 経済学に興味を持つことができる。 2. 不完全競争市場における企業行動の基本的知識・理論を身につけることができる。 3. 企業の行動に関心を持つことができる。 (最終目標) 1. 企業の立場から利潤拡大などの企業戦略を考えることができる。 2. 政府が行う産業政策や競争政策の意味が理解できる。 3. 企業サイド(供給サイド)と消費者サイド(需要サイド)の両サイドから市場・産業を見ることができる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 第1回のレジュメを除いて、原則としてレジュメの配布は行わない。各自で Google Classroom から PDF データのレジュメをダウンロードし、さらにプリントアウトして使用して欲しい。第1回目の授業で詳細を説明する。		
〔教科書〕 特に指定はしない。毎回レジュメを使って授業をする。レジュメに書き込む形で授業を進めるので、しっかりと書き込みながら学習することを強く勧める。また、試験の際には、そのレジュメを使って勉強することになると思われる。		
〔指定図書〕 授業内容に興味を持った場合や、理解が不十分な場合は読むことをお勧めする。 1) 青木玲子・大橋弘監訳『企業と経済学』日本評論社、2023 (原著:Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization (Second Edition), The MIT Press, 2017)		
〔参考書〕 1) 青木玲子・大橋弘監訳『企業と経済学』日本評論社、2023 (原著:Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization (Second Edition), The MIT Press, 2017) 2) 長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社、1998 3) 井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治『入門・産業組織』有斐閣、2010 4) 小田切宏之『競争政策論(第2版)』日本評論社、2017 5) ネリス・パーカー『ビジネス・エコノミクス原理(第2版)』(訳岩本・小野)ピアソンエドケーション、2009		

6)橋川武郎・平野創・板垣暁『日本の産業と企業』有斐閣、2014 7)David M. Kreps, Microeconomics for Managers (Second Edition), Princeton University Press, 2019	
〔前提科目〕 ミクロ経済学とマクロ経済学の知識があることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 以下の通り総合的に判断する予定である。 ・定期試験(中間・期末試験)60%(到達目標の達成度に応じて評価する) ・宿題 40% ・裁量点(授業への貢献度、熱心さなども考慮する)	
〔評価の基準及びスケール〕 評価基準は以下の通り。 A:90%以上 B:80%以上 90%未満 C:70%以上 80%未満 D:60%以上 70%未満 F:60%以下(不可)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 基本的にレジюмеを配り、その内容に基づいて授業を行う。授業ではできるだけ現実と結び付けて説明をする予定なので、頑張って理解するように心掛けてほしい。また、以下の要領で予習と復習をしてほしい。 (予習) 1. 新聞やニュースを読んだり見たりして、経済活動や企業活動に詳しくなること。 2. ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的なテキストを読み直しておくこと。 (復習) 3. レジюмеを読み直し、重要な語句を覚える。重要な理論はその導出過程も確認する。 4. レジюмеに演習問題がある場合は、それを解く。 5. 理解が不十分な場合は、参考文献の該当箇所を読むこと。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):産業組織論とは 内 容:ガイダンス、産業組織論とは何か? 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジюмеを配布する)
第2回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習1 内 容:市場理論(完全競争市場と不完全競争市場) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジюмеを配布する)
第3回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習2 内 容:企業理論(利潤最大化、費用の概念、規模の経済など) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジюмеを配布する)
第4回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習3 内 容:企業理論(規模の経済、組織、日本型経営システム) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジюмеを配布する)
第5回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場1 内 容:独占市場の行動(日効率性、マークアップ原理、屈折需要曲線) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジюмеを配布する)

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場2 内 容:複占市場(クールノー・ナッシュ均衡、シュタッケルベルグ均衡、ベルトラン均衡)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場3 内 容:ゲーム理論1(ナッシュ均衡、マクシミン・ミニマックス均衡)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場4 内 容:ゲーム理論2(混合戦略、ゲームの木)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場5 内 容:差別価格戦略(グループ別価格差別、二部料金制度など)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場構造1 内 容:参入障壁、参入・退出規制など</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場構造2 内 容:垂直統合、水平統合</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場構造3 内 容:参入阻止行動</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場構造4 内 容:市場の失敗と政府の政策(外部性、自然独占)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場構造5 内 容:市場の失敗(公共財、情報の経済学)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):今までの復習(小テスト) 内 容:第1回から第14回までの問題演習</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):産業分析1 内 容:自動車産業、電力産業</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):産業分析2 内 容:通信産業、航空産業</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):産業分析3 内 容:アパレル産業</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):非価格戦略1 内 容:商品の差別化(理論と事例)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):非価格戦略2 内 容:市場の集中度、マーケットシェア、インセンティブ戦略</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):技術革新と研究開発1 内 容:技術革新のインセンティブ</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):規制と競争1 内 容:規制の根拠(外部性など)と規制政策</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):規制と競争2 内 容:自然独占産業における規制改革</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):規制と競争3 内 容:ラムゼイ価格、ピークロードプライシング</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済1 内 容:ネットワーク効果(バンドワゴン効果)、スタンダード、バーゲニングパワー</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済2 内 容:ネットワーク外部性と企業間競争</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済3 内 容:知的財産権保護と競争政策</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):技術進歩と経済成長1 内 容:経済成長の源泉と経済成長理論(ハロッド=ドーマー、新古典派成長理論)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):技術進歩と経済成長2 内 容:技術進歩の重要性(内生的経済成長理論)</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):総復習(小テスト) 内 容:第16回から第29回までの総復習・問題演習</p> <p>教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)</p>
試験	筆記試験